

あ く 手

～ホームページ版～

生徒指導主事 三好 元文

はじめに

お子様にとって、本来学校は学びの場であると同時に、先生や友達との楽しい交流の場でもあります。

お子様は、知識を身に付けると共に、忍耐強く物事をやり遂げその喜びを味わったり、友達と仲良く遊んだり衝突したりすることを通して、大きく成長してゆきます。

しかし、お子様がどうしても乗り越えられないような、出来事にぶつかることもあるかもしれません。

- ・最近、子どもに元気がない。
- ・学校へ行きたくないと言っている。
- ・トラブルがあったようだが、どうしたらよいのかわからない、等。

ご心配なことがありましたら、遠慮なく申し出て下さい。

学校での面談、あるいは家庭訪問等によくお話を聞かせていただきます。

学校としても、出欠席の状況や、学校での生活の様子で心配なことがある場合には、連絡を差し上げることがあります。

問題の解決に向けて、担任、生徒指導担当が一緒に取り組んでゆきます。

また、スクールカウンセラーによるカウンセリングや専門機関への紹介も行っております。

登校や学級集団に不安があるお子様への支援としては、「ふれあい教室」を設けています。



1 ふれあい教室

登校しにくいお子様のために、「ふれあい教室」を設けております。

ここでは、ふれあいひろば推進員、担任、生徒指導主事、養護教諭等が連携して、本人のペースに合わせて、学習したり、生活したりすることができるよう指導にあたります。

お子様が、安心して学校へ来ることができることを基本にしております。

2 スクールカウンセラー

スクールカウンセラーは、カウンセリングの専門的知識を持った臨床心理士です。

心理の専門家の立場から、保護者の皆様のお子様のことについての悩みや、お子様自身の悩みの相談に関わり、具体的にアドバイスを受けることができます。

これまでに相談された保護者の方からは、「子どもへの関わり方が、分かったように思いました。」等の感想をいただいております。

お子様のことで気になることや、悩まれていることがありましたら、遠慮なくご相談下さい。

3 中学校区での小・中学校の連携

口田中学校区各校の生徒指導主事と、週1回連絡会を持ち、以下のような事柄について連携を深めています。

- ・不登校傾向の児童への支援の在り方について。
- ・児童・生徒指導上の諸問題への対応について。
- ・スクールカウンセラーを交えた、カウンセリング計画立案。
- ・口田中学校への訪問及び、授業参観。
- ・口田中学校正門でのあいさつ運動参加。

4 道徳の授業から

「心を通い合わせるために大切なこと」

今年度は、特に3・4・5年生の道徳の学習指導を通して、子ども達に語りかけ、心の成長の糧となるよう、担任と協力して取り組んでいます。

「いかに生きるか」ということは、私達大人にとっても、また、子ども達にとってもとても大切な課題であるように思います。

目には見えない、お金に換算することもできない、しかし、人を生かし、生きる方向を示す事柄について、子ども達に分かりやすく、また、感動を共にしながら、伝えていけたらと思っています。

前期前半、「人と人との心を通い合わせるために大切なこと」をテーマに、3・4・5年の各学級でそれぞれ1時間ずつ授業を行いましたので、紹介させていただきます。

5年生では、「顔が表現するもの」(みんなで考える道徳5年/日本標準刊より)という資料を用い、授業をしました。

まず担任が喜怒哀楽の書かれた数枚のカードから1枚を無作為に取り出し、そこに書かれてある感情を表情で表しました。子ども達はそれを見て、「喜んでいる。」「腹を立てている。」「悲しい。」「さびしい。」等、意見を出し、楽しみながら気持ちを当ててゆきました。

次に、「顔が表現するもの」という資料を見ながら、「それぞれの人がどんな気持ちか。また、自分がその場にいたらどんな気持ちになるか。」考えてゆきました。

①



②



①の絵を見て(実際には写真でしたが)、子ども達からは、「悲しんでいる。」「迷子になったんだ。」「事故か、事件に遭ったのかもしれない。」「自分がこの場にいたら悲しくなる。」「慰めてあげたい。」等の意見が出ました。

また、②の絵からは、「嬉しそう。」「何かイベントをやっているのだろう。」「有名人が来ているのかもしれない。」「この場にいたら、自分まで嬉しくなる。」等の発言がありました。

続いて、考え込んでいる顔や、怒っている顔等の写真についても考えてゆきました。

そして、

目や顔はどんなことを表しているでしょう。

と各班で考えるよう、投げかけました。子ども達は、班の友達と話し合い、次のよ

うな意見を出しました。

- ・ 悲しい、楽しい、困っている、くやしい等の気持ちを表している。
- ・ 周囲で起こっている出来事や、どんなことをしているかが表れている。
- ・ 言いたいことを表している。
- ・ 考えていることが分かる。
- ・ 性格。
- ・ 言葉で伝えられなかった思い。
- ・ 本音。



その後、普段自分はどんな表情をしているか振り返りました。
そして、まとめとして、次のような話をしました。

みんなの心の中にも先生の心の中にも、良い心もあるけれど、良くない心もある。

そこで、良い表情であろうとすれば、良い心に少しでも従って生きてゆくことが大切なんだ。

「顔の造作は親の責任。しかし、表情は本人の責任。」という言葉がある。顔のつくりは、親からもらったもので、かえようがない。しかし、顔の表情は、日々その人が思っている事柄によりつくられてゆく。

人に親切にしようと思いつながりながら生きている人は、自然と優しい表情になってゆく。真面目に生きている人は、真面目な表情に、正直に生きている人は、清潔な表情になってゆく。

逆に、意地の悪いことばかり考えている人は、意地の悪い表情になる。

だから、日々できるだけ良い思いを持って生きてゆくことが大切なんだ。

また、人はお互いに影響を与え合いながら生きている。相手に対する時、冷たい表情で接すれば、相手からも冷たい表情が返ってくる。

反対に温かい思いを持って心の底から、にっこり笑えば、相手も温かい心で関わってくれる。

できるだけ良い表情であるためには、自分自身の心を見つめるとともに、人への思いやりを持って生きることが大切なんだ。

子ども達は一心に聞き入っていました。

3・4年生では、写真の子ども達の表情から内面を考えるのではなく、班の子どもが、色々な気持ちが書かれてあるカードから一枚を無作為に取り出し、そこに書いてあることを表情や態度で表し、他の子が気持ちを言い当てるというやり方をしました。

子ども達はとても喜んでこの活動に取り組みました。

そして、

人と心を通い合わせるために大切なことは何でしょう。

と問いかけました。

それに対し、子ども達は以下のように応答しました。



- ・ ひょうじょう。ひょうじょうは大切だと思った。
 - ・ ことばだけでなく、ひょうじょうをつかってつたえたり、どうさでつたえたりすることが大切だと思いました。
 - ・ ないた時や、けがをした時に、なぐさめてくれる人や、顔だけでわかる人が心に気もちのこもっている人。
 - ・ 話しかけたりして、お話でいろんなことを話して、いろんなことを通じ合うことです。
 - ・ わらったり、あいさつをしたりして、人と心をかよい合わせることができる。
 - ・ あいての気もちを考える。
 - ・ 友だちがいないいたりしたら、「だいじょうぶ。」と声をかけてあげるといい。
 - ・ ぼくは、なかよくすることがとても大切だと思います。なぜかという、けんかをして、なかなおりができないと、友だちがいなくなるからです。
 - ・ 人となかよくし、遊んだりして、人を自分と同じぐらい大切にすることです。
 - ・ 自分の気もちをちゃんと言ったり、人の気もちを聞いたりすること。
 - ・ あいてがわらったら、自分もわらって、かなしそうな顔をしていると、自分もあいてにあわせて、同じ顔をするをすると、仲よくなれると思う。
- (3年生の児童のワークシートより)

3年生なりに、人との関わりで大切にしないといけないことを、よくとらえていると思いました。

これからも、子ども達が、子どもらしい素直な心、正直で思いやりのある心を大切に、よりよい表情で成長していってくれることを願っています。

「かぎりなくやさしい花々～星野富弘～」

普段、友達と楽しそうに遊んだり、衝突したりしながら生活している子ども達ですが、互いを思いやる優しさや、正しく真っ直ぐに生きるということについて強い関心を持っていることを道徳の授業を行う中で感じてきました。

この1年間、子ども達のこのような純真な心に語りかけるようなつもりで授業を進めてきました。

4年生では、星野富弘さんについて学びました。

星野さんのことは、ご存じの方も多いと思います。

元中学校の教員で体操クラブの指導中大けがをし、首から下が麻痺してしまいました。

しかし、そのような苦しみの中で、自分が生かされていることに気付き、また、口に筆をくわえて詩や花の絵をかくことができるようになったことで、生きる希望を見い出します。

この星野さんの姿を通して、どのような状況におかれても、希望や喜びを持って生きることができることを、子ども達と共に学びたいと思い本授業を行いました

かぎりなくやさしい花々ー星野 富弘一

私が、中学校の体育の先生になったばかりの頃でした。

体操クラブの時間、生徒と一緒に宙返りをしていました。何度目かの宙返りをしたときです。どうしたことかマットに頭からまっさかさまに落ちてしまったのです。

そして、ひっくり返ったままどうしても起きあがることができませんでした。実はこの時、首に大けがをしていたのです。

このけががもとで、手や足を含め首から下が全く動かなくなりました。何度も生と死の境をさまよいましたが、命だけはなんとかとりとめました。

しかし、こんな体になり、わたしには今までのように、生きていく気持ちがなくなりました。

ある時、とても親しかった病気の少年を励ますために、帽子に寄せ書きをすることになりました。

私は、いろいろ考えたあげく、口にサインペンをくわえてみました。母が帽子を私の顔の上に広げてくれました。頭を持ち上げてサインペンを動かし帽子に字を書こうと思ったのです。

しかし、私には自分の頭を持ち上げる力さえありませんでした。サインペンを砕けるほどかみしめ、やっと書けたのは帽子にぼつんとついた小さな点だけでした。

それから半年が過ぎましたが、口にくわえたサインペンで、どんなに頑張っても一本の線さえ引くことができませんでした。

そんな時、看護学校の実習で世話をしてくれていた篠原さんが、「体を横にしたまま、字を書いたらどうでしょう。」と私に言ったのです。

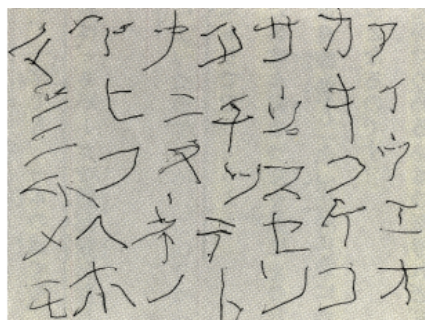
横向きですから頭を持ち上げる必要はありません。くわえたサインペンの先すれすれにスケッチブックを立て、頭を少し前にずらせばペンの先が紙につきます。

くわえたペン先もスケッチブックを握っている篠原さんの腕もぶるぶると震えていました。

でも、書けたのです。このときはじめて書けたのが、かたかなの「ア」でした。

ミミズがのたくったような字ですが、一字でも、一本の線でも、なんにもできないと思っていた私にしてみれば、スポーツで新記録を出したような喜びでした。

一字ずつ増えていく文字を見ながら思いました。



もう一度、器械体操をはじめたときのような気持ちでやってみよう。

器械体操の美しい技も、いきなりできる人はいません。全く見栄えのしない、一つ一つの基になる技を、毎日毎日練習して、正確に身に付け、それを積み重ねてはじめて、あの美しい技となるのです。

私の書く文字も、今はへなへなして、見かけの悪いものだけれど、時間をかけて、一本の線、一つの点をしっかり書けるように練習していけば、いつかきっと、美しい字が書けるようになると思いました。

やがて私は、花びんに生けてあるお見舞いの花も描くようになりました。花が一つずつ出来上がっていくのは絵というより希望でした。遠くかすかに見えていた希望の光が、花の形になって、私の目の前に広がっていくようでした。

描いていくうちに、花は、ますます美しくなり、描き終わったときは、その美しい花と友達になったような気がしました。

また、後にはそれぞれの絵の側に、絵を描いたときの気持ちや、その花から受けた思いなどを短い詩のような文章にして添えるようになりました。

「かぎりなくやさしい花々」(文・星野富弘/偕成社刊)より

上掲のテキストを読んだ後、私は子ども達に、首から下が全く動かなくなった時の星野さんの気持ちについて問いかけました。

すると子ども達からは、

「もう体操ができない。」

「これからどうやって生きてゆこう。」

「あのとき宙返りをしたからこんなことになったんだ。」

「一生このままなのだろうか。」

等、絶望的な星野さんの気持ちが出ました。

そして、口にくわえたサインペンで点しか書けず、どんなに頑張っても 1 本の線さえ引けない状態で半年が過ぎた頃、初めて「ア」の字が書けました。

この時の星野さんの気持ちを問いかけると、

「半年間書けなかったのが、やっと書けた。」

「これから、他の字も書けるようになるかもしれない。」

「篠原さんありがとう。」

「生きる希望が出てきた。」

「練習すればきれいに書けるようになっていくかもしれない。」

等の意見が出ました。

そして、星野さんは詩を書くようになり、絵も描くようになりました。

星野さんのかいた「なのはな」という詩画です。

子ども達は、この詩画の感想を班で話し合い発表しました。

「首が折れても希望はある。」

「最初は『もうできない。』
と思っていたけれど、『できる。』と思えばできる。」

「私も強い茎になりたいと思った。」

「菜の花も星野さんも強いんだな。」

「菜の花みたいに、折れても最後まであきらめない力を持っているからすごい。」

「強い気持ちを感じる。」

等の意見が出されました。

私の首のよりに
茎が簡単に折れてしまった
しかし菜の花はもがら華を出し
花を咲かすた
私をこの世と
同じ水や土で
食糧にしている
同じ光を
受けている
強い女になろう



「風の旅」(詩画・星野富弘/学研刊)より

子ども達が今日の学習をして思ったことをまとめました。

【1組】

口で文字を書くなんてすごい。私が落ちこんだ時には、星野さんの詩を見て勇気づけられると思う。体が動かないのに一生けん命生きているから、私もがんばろうと思った。

星野さんは動けない分、思いを表現するのがうまいと思った。何かができなくなっても、まだ、何かができるということであらためて感じた。

首が動かさないのに絵や文字がかけているからすごいと思った。がんばれば何でもできると思った。わたしも勇気を持って生きないといけないと思った。自分で自分の未来を決めるのだとあらためて思った。希望を持って生きることが大切だと思った。

【2組】

体が動かなくても、こんなにすごい絵がかけるなんてすごいなと思った。ぼくもこんなふうにしんぼう強く生きようと思った。星野さんに会いたい。これから一生けん命あきらめずに生きようと思った。

どんなしょう害を持っている人でも、必ず希望の光はあると思った。大変なしょう害があっても強く生きられてすごいなと思った。

体が動かなくても希望があれば何でもできるし、生きていくこともできるんだなあと思った。

【3組】

星野さんは、首から下が動かなくなっても大変だったと思います。でも、字や絵をかくことができるのですごいと思います。口だけでいろんなことができるので、ふつうの人間だと思います。みんなとちがう人間ではなくて、みんなと同じ人間だと思います。もし、私が星野さんだったら、こんなことはできないけど、星野さんはぜったいに死なないという心があったから、こんなことができるようになったのだと思います。

わたしがなったら希望は持てないのに、この人は菜の花のくきのように一本のくきからどんどんはえかわって強い人だと思いました。そういう人は救われていつかいい時があると思うから、わたしもがんばりたいです。星野さんが、くきみたいにかがやいていました。

わたしは何かできないことがあったら、少しはらが立ってあきらめてしまうけど、星野さんは半年間も練習して何回もチャレンジした。星野さんは、菜の花のように力強く、また、あきらめずすごいと思った。これからはすぐあきらめないで、いつかぜったいできる日が来るから最後までしっかりやろうと思う。

感想からもお分かりいただけるとと思いますが、子ども達は強い関心を示し、真剣に授業に取り組みました。

これから先、子ども達が困難に直面し行き詰まった時、この授業を思い出してもらえたらと願っています。

* 「かぎりなくやさしい花々ー星野富弘ー」のテキスト及び「なのはな」の詩画の掲載については、著者の許諾を得ております。

本年度を終えるにあたって

本年度も後わずかとなりました。これまでお子様は毎日、楽しく登校することができたでしょうか。

この一年間、生徒指導担当として、登校しにくかったり、問題となる行動をしたりした子ども達に関わると共に、口田中学校区の小中学校と連携して、子ども達の生活面でよりよい指導・支援ができるよう努めてきました。

このような活動の一環として、昨年 11 月には「地域での子ども達の様子を知る会」に出席しました。

本会では、地域の商店の店長さんから、それぞれの店に来店する子ども達や保護者の方々の様子を聞かせていただきました。

店長さんは、問題行動が低年齢化し、深刻になってきているので、保護者、地域の方々、教員で連携して対応してゆくことが大切であるという話をされました。

また、警察の方も出席され、他の地域に比べて、この地域は犯罪が少なく落ち着いていると話されました。

それらの話を受けていくつかのグループに分かれ、保護者を含む地域の方々と懇談の時を持ちました。

その中で、地域の方から、

「子どもが問題行動を起こした時に、それを食い止める本当に怖い存在は、親か教師か？」

という質問が投げかけられました。

私は、本当に深い愛情を持って厳しく子どもに関わることができるのは親であり、教員が精一杯やったとしても、親が子を思う思いには至らないという思いで返答しました。加えて、教員の立場で保護者の方々と連携しながら関わってゆくことも大切であると思います。

また、別の地域の方からは、

「先生には、子ども達をたたいてでも、きちっと指導してほしい。」

という意見が出されました。

厳しい指導と言われた方の気持ちもよく分かりました。

私自身は本校に赴任して 2 年目になりますが、子ども達が落ち着いてまじめに物事に取り組む様子から、警察の方が話されたのと同じような印象を持っております。

しかし、最近数年来なかったような問題が起こってきていることもあり、子ども達の規範意識が少しずつ薄れてきているのではないかという危惧を抱いております。

子ども達の日常生活を通して、規範意識を育ててゆくことが大切なのではと感じています。

